

南魚沼版CCRCによる効果影響分析

2016年3月22日(火)

効果影響分析の結果概要

- CCRCの推進により、日常の生活や社会経済活動による消費効果とその経済波及効果が期待される一方で、中長期的な医療・介護保険財政への影響も懸念されている。
- アクティブシニアの移住に伴う中長期的な効果・影響を検証したところ、以下が明らかになった。
 - 要介護3以上となる人のピークは、200戸400人の移住受入目標を達成した場合で移住後22～23年目。
 - 南魚沼市の医療・介護負担は、先行して得られる社会保険料収入や市民税収入で賄うことが可能。
 - 介護人材の必要人員は、ピーク時においても移住者の2～3%程度。

【移住者の受入に伴う効果影響分析の結果】

	①50歳が100人 移住した場合	②60歳が100人 移住した場合	③70歳が100人 移住した場合	④移住受入目標を 達成した場合
平均移住者数のピーク	100人(1年目)	100人(1年目)	100人(1年目)	399人(3年目)
要介護3以上のピーク(90%値※)	18人[18%] (37-39年目)	18人[18%] (27-28年目)	18人[18%] (18-20年目)	48人[12%] (22-23年目)
南魚沼市の医療・介護費負担 累積額(90%値※)(50年間)	2.1億円 (ピーク:36年目)	2.2億円 (ピーク:26年目)	2.0億円 (ピーク:16年目)	7.9億円 (ピーク:21年目)
介護人材必要人員のピーク (90%値※)	3人 (34-40年目)	3人 (24-30年目)	3人 (13-21年目)	8人 (19-24年目)
経済波及効果累積額 (10%値※)(50年間)	3.3億円 (ピーク1年目)	2.5億円 (ピーク1年目)	1.8億円 (ピーク1年目)	8.9億円 (ピーク3年目)
社会保険料収入+市民税収入累積額 (10%値※)(50年間)	14.5億円 (ピーク1、16年目)	10.0億円 (ピーク1、6年目)	5.5億円 (ピーク1年目)	30.6億円 (ピーク3年目)

※●%値:100回のシミュレーション結果で得られた値を小さい順に並べたとき、全体で●番目に小さい値。(例:90%値:90番目に小さい値=10番目に大きい値)
出所)三菱総合研究所作成

①50歳が100人移住した場合

- 要介護3以上となる人は、移住後37～39年目の18人がピーク。
- 南魚沼市の医療・介護負担累積額は、50年間で2.1億円となる見込み。
ただし、先行して得られる社会保険料収入や市民税収入で賄うことが可能。
- 介護人材の必要人員は、ピーク時においても移住者の3%程度。

【移住者の受入に伴う効果影響分析の結果】

①50歳が100人 移住した場合	
平均移住者数のピーク(のべ)	100人(1年目)
要介護3以上のピーク(90%値※)	18人[18%] (37-39年目)
南魚沼市の医療・介護費負担 累積額(90%値※)(50年間)	2.1億円 (ピーク:36年目)
介護人材必要人員のピーク (90%値※)	3人 (34-40年目)
経済波及効果累積額 (10%値※)(50年間)	3.3億円 (ピーク1年目)
社会保険料収入+市民税収入累積額 (10%値※)(50年間)	14.5億円 (ピーク1、16年目)

【分析の主な設定条件】

項目	条件
移住者数	100人(1年目)
性別	男:女=1:1
移住時の年齢	全員50歳
移住時の健康状態	移住時は全員健常
住所地特例の適用	なし(南魚沼市の医療・介護負担が最大となる場合を想定)
年間消費可能額	240万円

※●%値:100回のシミュレーション結果で得られた値を小さい順に並べたとき、全体で●番目に小さい値。(例:90%値:90番目に小さい値=10番目に大きい値)
出所)三菱総合研究所作成

②60歳が100人移住した場合

- 要介護3以上となる人は、移住後27～28年目の18人がピーク。
- 南魚沼市の医療・介護負担累積額は、50年間で2.2億円となる見込み。
ただし、先行して得られる社会保険料収入や市民税収入で賄うことが可能。
- 介護人材の必要人員は、ピーク時においても移住者の3%程度。

【移住者の受入に伴う効果影響分析の結果】

②60歳が100人移住した場合	
平均移住者数のピーク(のべ)	100人(1年目)
要介護3以上のピーク(90%値※)	18人[18%] (27-28年目)
南魚沼市の医療・介護費負担 累積額(90%値※)(50年間)	2.2億円 (ピーク:26年目)
介護人材必要人員のピーク (90%値※)	3人 (24-30年目)
経済波及効果累積額 (10%値※)(50年間)	2.5億円 (ピーク1年目)
社会保険料収入+市民税収入累積額 (10%値※)(50年間)	10.0億円 (ピーク1、6年目)

【分析の主な設定条件】

項目	条件
移住者数	100人(1年目)
性別	男:女=1:1
移住時の年齢	全員60歳
移住時の健康状態	移住時は全員健常
住所地特例の適用	なし(南魚沼市の医療・介護負担が最大となる場合を想定)
年間消費可能額	240万円

※●%値:100回のシミュレーション結果で得られた値を小さい順に並べたとき、全体で●番目に小さい値。(例:90%値:90番目に小さい値=10番目に大きい値)
出所)三菱総合研究所作成

③70歳が100人移住した場合

- 要介護3以上となる人は、移住後18-20年目の18人がピーク。
- 南魚沼市の医療・介護負担累積額は、50年間で2.0億円となる見込み。
ただし、先行して得られる社会保険料収入や市民税収入で賄うことが可能。
- 介護人材の必要人員は、ピーク時においても移住者の3%程度。

【移住者の受入に伴う効果影響分析の結果】

③70歳が100人移住した場合	
平均移住者数のピーク	100人(1年目)
要介護3以上のピーク(90%値※)	18人[18%] (18-20年目)
南魚沼市の医療・介護費負担 累積額(90%値※)(50年間)	2.0億円 (ピーク:16年目)
介護人材必要人員のピーク (90%値※)	3人 (13-21年目)
経済波及効果累積額 (10%値※)(50年間)	1.8億円 (ピーク1年目)
社会保険料収入+市民税収入累積額 (10%値※)(50年間)	5.5億円 (ピーク1年目)

【分析の主な設定条件】

項目	条件
移住者数	100人(1年目)
性別	男:女=1:1
移住時の年齢	全員70歳
移住時の健康状態	移住時は全員健常
住所地特例の適用	なし(南魚沼市の医療・介護負担が 最大となる場合を想定)
年間消費可能額	240万円

※●%値:100回のシミュレーション結果で得られた値を小さい順に並べたとき、全体で●番目に小さい値。(例:90%値:90番目に小さい値=10番目に大きい値)
出所)三菱総合研究所作成

④移住受入目標を達成した場合(200戸400人が移住した場合)

- 要介護3以上となる人は、移住後22-23年目の48人がピーク。
- 南魚沼市の医療・介護負担累積額は、50年間で7.9億円となる見込み。
ただし、先行して得られる社会保険料収入や市民税収入で賄うことが可能。
- 介護人材の必要人員は、ピーク時においても移住者の3%程度。

【移住者の受入に伴う効果影響分析の結果】

④移住受入目標を達成した場合	
平均移住者数のピーク(のべ)	399人(3年目)
要介護3以上のピーク(90%値※)	48人[12%] (22-23年目)
南魚沼市の医療・介護費負担 累積額(90%値※)(50年間)	7.9億円 (ピーク:21年目)
介護人材必要人員のピーク (90%値※)	8人 (19-24年目)
経済波及効果累積額 (10%値※)(50年間)	8.9億円 (ピーク3年目)
社会保険料収入+市民税収入累積額 (10%値※)(50年間)	30.6億円 (ピーク3年目)

【分析の主な設定条件】

項目	条件
移住者数	1年目:50戸100人 2年目:50戸100人 3年目:100戸200人
性別	男:女=1:1
移住時の年齢	50~54歳:40人 55~59歳:40人 60~64歳:80人 65~69歳:120人 70~74歳:80人 75~79歳:40人
移住時の健康状態	移住時は全員健常
住所地特例の適用	なし(南魚沼市の医療・介護負担が最大となる場合を想定)
年間消費可能額	240万円

※●%値:100回のシミュレーション結果で得られた値を小さい順に並べたとき、
全体で●番目に小さい値。(例:90%値:90番目に小さい値=10番目に大きい値)

出所)三菱総合研究所作成

分析結果からの示唆

- 移住者の健康状態のシミュレーションに基づけば、要介護3以上の割合のピーク(90%値)は、どのケースにおいても2割弱程度。「アクティブシニアも数年経てばすぐに多くが要介護になる」との危惧は当たらない。
- 南魚沼市の医療・介護費負担は、社会保険料収入や市民税で賄うことが可能。
 - 移住者からの社会保険料収入および市民税を基金化し、医療・介護費負担に備える方策もあり得る。
 - 住所地特例対象者の割合が少ないと医療・介護負担は大きくなるが、その分、社会保険料収入が大きくなるため、住所地特例の活用が必ずしも有利とは限らない。
- 介護人材の必要人員は移住者の2~3%程度であり、南魚沼市全体の介護人材の必要人員に比べればさほど多くはない。ただし、これを絶対数として確保することは容易ではなく、計画的に介護人材の育成・確保を図っていくことが重要である。